



たんぽぽ

第1号 平成30年6月



社会福祉法人岩手愛児会
 たんぽぽ病児保育所
 〒020-0102
 盛岡市上田字松屋敷11-14
 Tel 019-662-5619
 Fax 019-662-5695
 E-mail tanpopo@aiji.or.jp

梅雨の時期～元気に過ごすために、ゆったり寛ぎ安らぎの時間をもうけ贅沢な癒やしも大切に♡ご自愛を♡病気に負けない体をつくりましょう。

お子様が病気で保育園や小学校に出すのは「心配」という時は、病児保育の利用も検討ください。たんぽぽ病児保育所を利用する際、かかりつけ医の受診で診断と病児保育の許可が必要になります。電話での予約をお願いします。

※受付時間 7:30～18:00 受付携帯 070-1736-3793 (看護師が対応いたします)

また、もりおかこども病院を受診される方へ、お知らせです。病児保育の予約をした上で受付窓口で「本日たんぽぽ病児保育の利用です」と伝えてください。予約していない方、利用したい方は診察を受ける前に病院看護師へご相談お知らせ下さい。空きがあれば利用可能な場合がございます。

利用申込み用紙は、岩手愛児会ホームページのたんぽぽ病児保育所か盛岡市ホームページよりダウンロードが可能です。事前に記入し入室時持参いただくと時間に余裕が出来ます。利用料金は一日ひとり2,200円給食付き(※保育料無料世帯は、病児保育料も無料です。)支払いは、振込み用紙が後日盛岡市役所より送付されます。

<たんぽぽスタッフ紹介>

看護師(しばた ゆみ):一日でも早く回復できるように願ってお世話しています。
 柴田 由美 保育中は笑顔のビタミン注入中です。宜しくお願いします。

保育士(にしやま なおみ):ゆったりとした雰囲気ですキンシップをしっかりと、
 西山 直美 笑顔いっぱいのたんぽぽになるよう努めていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

保育士(こくら えみ):この5月からたんぽぽ病児保育所でお世話になっております。
 小倉 恵美 小倉と申します。毎日の出会いを大切に努力していきたいと思ひます。よろしくおねがいします。

「風邪」と間違えられやすい病気やこじれて起こる病気について知っておこう!

「かぜ」とは、鼻・のどに起こる急性の総称で上気道(鼻・咽頭・喉頭)と下気道(気管・気管支・肺)に炎症が起こることをいいます。疲れて体の抵抗力が落ちていると弱った体の中でウイルスや細菌が増えて、咳・鼻水などの症状が出ます。

かぜ症状は、炎症の起きている場所から出ます。鼻粘膜の炎症は、くしゃみ・鼻水・鼻づまり。喉の粘膜の炎症は、咳・痰・喉の痛み。そして、発熱や頭痛、倦怠感など同時に人それぞれ現れることもあります。

かぜの治療は、残念ながら特効薬はなく「熱を下げる」「咳を鎮める」「鼻喉の炎症を鎮める」など症状に応じたお薬で「対症療法」の治療です。細菌感染が疑われた場合は、抗生物質の内服治療があります。

<風邪と間違えられる病気>

1. インフルエンザ...近年では、冬に限らず一年を通して見られています。検査のタイミングは発熱して12時間経過後の検査が望ましい。発症48時間以内で抗ウイルス薬が効果あり安静が大事です。
2. クループ症候群...2～6歳児くらいのお子さんに多く見られる。症状は、発熱や喉の痛みから始まり、声のかすれ、犬が吠えるような「ケンケン」と変な咳とを感じる、普段と違う特徴のある咳が出るようになります。息を吸うことが出来ず酸素不足が起こりチアノーゼや呼吸困難で症状が悪化する恐れがあるので医療機関を受診しましょう。意識が遠のく様子なら救急車を呼び早急に治療を受ける状態で命の危険があります。夜・早朝は咳が強くなるので気をつけて。「パラインフルエンザウイルス」「RSウイルス」「アデノウイルス」によるものがありウイルス感染から気道粘膜が腫れて空気の通り道が狭くなるため、かすれた特徴のある咳が出ます。軽い症状の場合は、1～2週間で回復、重い症状の場合は、入院治療、酸素吸入、気管挿管、ステロイド薬の注射、ボスミン吸入などの治療が必要となります。
3. マイコプラズマ感染症...発熱、倦怠感、頭痛から始まり、乾いた咳が出るようになります。日ごとに咳が強くなり夜間や早朝に出やすく、熱が下がっても3～4週間と続く長引く咳が特徴です。抗菌薬による治療がなされます。2週間以上咳が持続する時は受診しましょう。

<風邪がこじれると起こる病気>

気管支炎・肺炎・喘息・中耳炎・副鼻腔炎になります。すでに経験されておられる方も抵抗力の落ちている状態のときには注意が必要です。こじれる以前にかかりつけ医の指示に従って治療の継続と栄養のある食事と睡眠・安静がポイントです。手洗いうがい・マスクも忘れずに病気の予防を心がけましょう。

※こじれると...憂鬱なことに慢性的経過をたどることになり病院に通うことが多くなってしまいます。そうなる前に症状出始めにかかりつけ医の受診をして治すことに努めましょう。

※最初の受診でお薬があっても、症状が変わったら受診することで「こじれる」防止になります。お大事にです。

